

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

1F

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス中島新町 1階		
所在地	愛知県名古屋市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	平成26年10月23日	評価結果市町村受理日	平成27年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を自宅で暮らしているように過ごしていただきたい。  
 毎日を明るく楽しく過ごしていただきたい。  
 そのために必要以上の束縛を行わず、できるだけ自由に過ごしていただこうと考えています。特に居室内は、ご利用者様が自由に過ごせる空間であるため、落ち着いて気楽に過ごせるよう工夫しています。さりげない声掛けを行い、親しみと信頼感を築こうと気を配り、その上で、残された能力を発揮できるように支援して行きたいと、職員一同同じ方向性を持って努めています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとってホームが家族と過ごす自宅であるように、職員は利用者それぞれの性格や思いの把握に努めて、理念でもある元気で楽しく明るい生活が送れるように介護の実践に取り組んでいる。また、外部研修や内部研修にも定期的に参加して研修内容の共有を図る事で、職員の育成や意識改革に努めている。家族には近況や翌月の予定報告や年2回写真付のホーム便り送付を行っている。昨年度の課題でもあった地域との交流も積極的に取り組まれており、本年度から法人の代表が自治会会長に就任したことで、介護の相談窓口や介護に関する幅広い情報発信の場として地域に広める期待が広がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

1F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間に理念が掲げられているので、毎日観ている。地域との関係性を考えた理念を大切にしている	応接室や各フロアに法人の理念である「明るく楽しく元気よく」が掲げられている。管理者は入職時に理念の説明をした上で、職員が日々のケアや行事に活かす事ができるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に入所者と共に参加している。日常的に買い物、飲食店への食事、散歩にて、挨拶や話をしている	回覧板を回している。自治会や地域で行われるお祭りなどの行事に参加したり、廃品回収に協力している。中学生の体験学習受け入れ、フラダンスや大正琴など多種多様なボランティアの訪問も利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩、外出などで、近所の方々との触れ合いにより理解していただいている。人材育成として実習生の受け入れをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの報告や意見を聞き、その都度実践に心掛けている	2ヶ月に1回、いきいき支援センター職員・町内会長・利用者・法人のケアマネが参加して行われている。ホームの行事や状況と利用者の状態報告をしたり、地域の情報や協力を得るなどの相談や交流の場となっている。	家族が参加できるように積極的な声かけを続けてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	意見や要望などをホーム長に伝え、ホーム長から運営推進会議等を経て伝えてもらっている	区役所の介護課や保護課に定期的に訪問して、空き情報の提供を行っている。市やいきいき支援センター・社会福祉協議会主催の研修にも積極的に参加している。区役所主催の情報伝達訓練に参加して、災害時にも連携が図れるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法等を徹底して、玄関の施錠はしないで、出入りは自由にしてある。身体拘束はしていない	入職時に認知症や身体拘束についての研修を行っている。夜間帯は安全面を考慮して家族に説明をした上で、玄関や2階入り口の施錠を行っている。利用者の気持ちに寄り添うなどの心配りで不穏状態を緩和したり、スピーチロックにも配慮した対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自立している方が多く、虐待はない。職員のストレス等が、利用者様のケアに影響していないかを把握している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学んでいる。必要性がある時は何時でも話し合える体制を取っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明し、納得し理解してもらえるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が利用料の支払いや面会に来た時などに、声掛けをしたりして聞き、それを職員の話し合いで生かしている	面会時には利用者の状態や生活の様子を伝えるとともに、家族からの意見や要望を聞けるように努めている。出された意見や要望は職員全体で共有して、改善できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を聞き、話し合いの上で反映させている	朝の申し送り時や個人面談において意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見はミーティングで情報共有を行い、職員間での問題点については中立な対応で、職員が働きやすい環境づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に支援を行っている。代表者はホームによく訪れて、不満や要望の訴えを聞き把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修などを、なるべく多くの職員が受講できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事での交流会をもうけたり、運営会議で毎月全ホームの管理者が集まって情報交換等をしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で対応し、コミュニケーションに気を配りながら、要望等を聞き出し、安心して生活してもらえるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、それに添うよう対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要として求めている支援をケアプランに取り入れて行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除時、フロアの談笑時、レクの時等、会話を共に楽しんでいる。人生の先輩と思い、支え合える関係作り心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自分が家族や親だったら、と考え、家族との情報交換を密にし、本人を支えて行くための協力関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問があったり、会いに行ったり、電話や手紙でのやり取り等、繋がりを継続できる支援をしている	入居前の友人や知人の面会、電話や手紙のやり取り、家族との外出ができるように支援して馴染みの関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事に全員が参加できるように声掛けをしながら、利用者間の仲のよし悪しに配慮し、孤立しないように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と偶然に顔を合わすと挨拶して様子を聞いたり、知っている施設へ移った方に対しては、訪問時に声掛けをしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望があればなるべく添うようにしている。日々の言葉や表情などから意思を確認するように努めている	利用者自身が思いを伝えることができる人や意思疎通が困難な人にも、職員は家族からの情報を参考にし、日頃の会話や表情、行動から把握している。利用者の思いや意向を職員が伝達するために記録に残し、毎月行われるフロア毎の会議で話合う機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等に、今までの生活スタイルを聞き、なるべくそれに添ったサービスができるように努め、個性や価値観等にも把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し、心身状態の変化に常に気配りをしている。 申し送り等からも把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見交換を行い、介護計画を作成し、反映させている	ケアプラン・モニタリング共に3か月に1回を基本に作成している。本人、家族へ状況を伝え、話し合いのもとで意見を反映するようにしている。毎月行う会議の内容もプランに載せている。利用者の状況の変化で随時変更も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに食事量、水分量、排泄や日々の様子など記録して、変化などを話し合い、実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、通院、訪問等、臨機応変に利用し、その時々に必要なサービスで対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の慰問には、積極的に依頼をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医と連携を取っているが、本人や家族希望がある場合、違う医療を受けられるように協力している	今年度から月1回のホーム担当医が変更になった。協力医は月2回往診しており、24時間対応している。他に月1回眼科、歯科の訪問診療がある。希望するかかりつけ医の受診は家族へ依頼しているが都合により職員が代行する。協力医とかかりつけ医が連携できるよう、診断書や処方箋を利用し、管理者が伝達を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変があれば、すぐ連絡し連携プレーを取っている。 日々の健康管理等の相談もしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連携しながら、病院へは、日々の生活の様子を、介護サマリーで情報を送っている。退院時は病院より、協力医とホームへ情報をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、特養等に移動してもらうか、病院への入院等の対応を取ることになると説明し理解を得ている	看取りは行っていないが、重度化した場合について、入居時に家族へ説明し、同意を得ている。利用者の身体状況に合わせ、家族と話し合いの機会を設け、意志を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、対応方法等、マニュアルに基づき対応できるようにしている。 協力医に連絡して指示をおおぐよう指示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、避難訓練を行っている。 災害時は職員同士連絡を取り、駆け付けられるようになっている	年2回夜間想定訓練と消防訓練を行っている。消防署に内容を伝え、頭巾の位置や一時避難についてアドバイスを事前に得た上で訓練を実践している。備蓄として水と食品を3日分程の用意がある。今後町内会で声をかける等地域の人にも避難訓練の参加を得られるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室の場合、ノックして返答があってから入る。その人に合った言葉掛けや、自己決定しやすい言葉掛け等の対応に配慮している	職員は利用者と馴れ合いにならないように意識して接している。排泄時の声かけや居室の掃除をプライバシーに配慮し、他の利用者にも聞こえないようにさりげなく伝えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをし、本人が答えるまで待っている。利用者に合わせた声掛けで、自分で決定できるようにし、希望など聞いて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やってあげる、ではなく、させてもらう精神を大切にしている。一人ひとりのペースを大切に、気持ちを聞いて対応することを心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりを大切に、季節等考慮して着ていただいている。外出の際は、本人が選ぶことで楽しくなれるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳を手伝ってもらっている。嫌いなおかずは作り方を変えて食べてもらっている。職員は、同じテーブルを囲み同じものを食べている	献立は今年度から季節毎に組まれているものを参考にしながら利用者の好みを交えて作成している。誕生日には好きなものを提供したり、外食をする機会を設けたりして食事を楽しむことができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に合わせている。刻み食で対応している人もいる。量をその都度記入して確認している。補助食品も必要に応じて使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず洗面所に行ってもらい歯磨きをしてもらっている。一人ひとりに応じた介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じた介助を行っている。できるだけ自己の力を使ってもらっている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの傾向の理解に努めている。利用者に声掛けの仕方や誘導で自尊心を傷つけないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックしている 野菜を多く摂り、水分補給や運動を工夫している。薬の調整も個々に応じて行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり浸りたい人は、後に入ってもらうなど工夫している。入浴はコミュニケーションの場でもあり大切にしている	入浴は一日おきに行っているが希望があれば毎日入れる。浴槽に入浴剤を入れたり髪や身体に好みの洗剤を使用したりして楽しむことができるように支援している。入浴順は外出予定や希望を考慮しつつ決めている。拒否される人には時間や職員をかえて声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方が多いので、自由に居室で休息している。眠剤が必要な方は医師と相談して調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを整理し、職員は内容を把握している。管理は職員で行い本人に手渡しで飲んでもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、畳み、散歩、レク、買い物、飲食など、一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いしたり、支援している。頼んだ時は感謝の言葉を伝えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、月1回の喫茶店、ラーメン店、寿司店の外食、日帰り旅行、一泊旅行なども行っている。家族と外出や旅行に行く方もいる	天候の良い時には散歩へ出掛けて気分転換をしている。初詣に神社、飲食店、喫茶店、お祭り、旅行、水族館、いちご狩りへ行っている。家族の協力を得ながらお墓参りや行きつけの美容室へ出掛けられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力にて少額のお金を持っている方もいる。買い物の日を決めて好きなものを買っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて日常的に電話をしていただいている。手紙を書いている方には投函を手伝っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間はいつも電気が点いている。居間はテレビが点けてあるので、いつでも観ることができ、使いやすい物品も選んで置いてある	リビングにソファとテーブルが2つある。食事後にソファに座ってテレビを観たり、のんびりと過ごしている。壁や天井に折り紙や書道の作品、利用者の写真、職員案内、カレンダーが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでくつろいだり、ゲームや雑談をしていただいている。全てが視界に入りやすい配置に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものなど置いていただいて、居心地の良さに配慮している。本人の手作りのものなど飾り、くつろげるように工夫している	居室にベッド、カーテン、呼出ボタンが、備え付けられている。テレビ、鏡台、仏壇、プランター、炬燵、写真、ぬいぐるみが持ち込まれている。壁には思い出の写真、表彰状、趣味の作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	通路などにもものを置かず、バギー、杖、を使用して、自由に行き来していただいている。手すり、スロープを設け、目印を付けたりして分りやすくしてある		